# 岐阜現代美術館展示ユニット

# Display walls for GICOMA

# Volumes of light enveloped in Japanese washi

所在地：岐阜県関市

 用途：可動式展示壁面

施工：テクノウッド寺田、大井工場

竣工：2006

写真：北嶋俊治

NBK関工園へのアプローチ脇に打ち放しコンクリートの巨大な円筒が立っています。これは当初音楽を聴くためのホールとして1993年に竣工しました。その後、篠田桃紅さんの作品を主なコレクションとする美術館としての機能を付加して今日に至っています。

ホールへのメインアプローチは末広がりの坂道になり、そのまま中濃の山の陵線まで視野が伸びます。小さな穴のような入り口から中に入ると、暗がりのなかにホールの主フロアが左下に見え、それに向かって螺旋を成してゆったりと下ってゆきます。主フロアには美術品の展示のための巨大な衝立てが雪明かりのように光って並んでいるかもしれません。コンサートのある日には、衝立ては壁際に寄せられ、池の水面を背に演奏者が美しい調べを奏でているでしょう。池の先には開放的な造りのNBKの事務棟が見えます。事務棟は軽快で水平に伸びるのに対して、ホール棟は垂直的で重厚な風情をもって、二つは池を挟んで対話をしています。